九州建設業協会定例懇談会

品確法運用へ体制強化

九州建設業協会（川畑俊彦会長）の第83回定例懇談会が12日、沖縄県那覇市の沖縄ハーバービューホテルで開かれた。4月に施行された「公共工事の品質確保の促進に関

沖縄ハーバービューホテルでされた懇談会＝沖縄県那覇市の

運用にあたって、国側は県、市町村など発注者間の連携促進を強調した上で、「年度ごとに実施状況の調査（フォローアップ）も行っていきたい」などと今後の施策方針を示した。

出席したのは、九州・沖縄各県の協会長や国土交通省、各県土木部関係者など。建設投資の縮小による厳しい業況を踏まえ、会では関連予算の増額確保や品確法への対応など業界が直面する課題や要望事項等について協議した。

品確法の運用について、協会は〝中央と地方との認識の格差〟を指摘した。市町村での導入が見込まれる簡易型のガイドライン等を踏まえ、国は「各県との協力体制を強化し、すべての発注者が実施できるよう支援していきたい」と述べた上で、年度ごとに実施状況の調査を行っていく方針を明らかにした。不良不適格業者の排除という観点から、川畑会長は「業者として、価格競争ではない評価はありがたい。今後は、われわれの体制整備も必要」と見解を示した。

政府は18年度予算において、国・地方の財政事情の悪化を理由に公共事業関係費の3％削減方針しかし、既にピーク時（平成10年度）の予算と比較すると半分程度まで減少している状況。予算の増額確保等については各県、「事業費の現状維持さえ困難」などとする状況説明にとどまった。

公共土木工事の発注者・設計コンサルタント・受注業者による三者協議の制度化については、国が15年度から試行しているものの、県レベルで温度差があることを指摘。公共建築物・構造物の耐震補強促進においては、九州・沖縄地区の地震に対する認識の低さに触れるとともに、今後早急な耐震調査や補強対策の必要性を求めた。

決議内容は次の通り。

補正予算の早急な編成（建設産業の再生と地方部における景気回復）

▽18年度公共事業予算の増額確保と九州・沖縄地区への重点配分（地方の社会資本整備推進）

▽公共事業に係る現行国庫補助制度の堅持（道路特定財源の理念と目的の堅持）

▽適正価格による入札・契約制度の確立（品確法の適正運用によるダンピング入札等の排除）

▽地方の中小・中堅建設業が主体となり、地域で完結できるようなPFI制度の確立（公共施設の整備等に係るPFIの積極活用）

▽発注者・設計業者・施工業者による三者協議制度の確立（公共工事の的確な施工に向けた三者連携の重要性）

▽九州・沖縄地区における公共建築物、構造物の耐震補強施策（福岡県西方沖地震など耐震対策の遅れによる被害）

▽設計単価の基礎となる労務費調査方法や適正賃金も考慮した制度の見直し（ダンピング入札等による賃金削減が設計単価に跳ね返る悪循環構造）

▽建設業経理事務士の適正評価に係る制度確立（民間資格に係る大臣認定評価一律廃止に対する施策）

話題の商品・工法

新商品・工法の情報などは本社ご報道部へご連絡下さい。

西部システム

側溝水平切断工法

低騒音で環境配慮

㈱西部システム（貫島恵一社長、国分市）はこのほど、側溝の壁厚分を全て水平に切断する「側溝水平切断工法」を導入、営業を開始した。

既設歩道のバリアフリー化に伴い、側溝のかさ上げ工事が発生する場合がある。

従来は、計画高で内側から深さ3㎝程度の場所に、サンダー等の小型カッターを水平に入れ、ブレーカーで人力によりハツリ撤去していた。この工法では、騒音・振動・粉じん等の発生が防げず、近隣住民の生活に支障をきたす事例も数多く見られた。

また、ブレーカー作業の振動が鉄筋に伝わることで、残存部にクラックが入る可能性も大きく、その場合、躯体を補修しなければならなくなるなど、追加工事の必要も出てきていた。

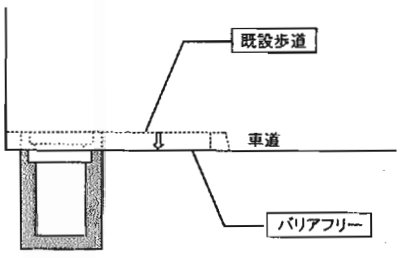
今回提案する「側溝水平切断工法」は、側溝の壁厚分を全て水平に切断するものである。

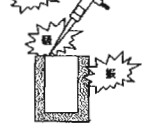
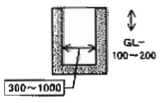
ハツリ作業を伴わないので、既存躯体への影響は全く見られず、従って補修工事の必要も無い。

施工に際しても低騒音・低振動で作業ができ、粉じんの発生もほとんどでないことから、作業場所を選ばない、環境に配慮した工法である。

問い合わせは、㈱西部システム（☎0995・46・9015）まで。

既設歩道のバリアフリー化による側溝の嵩下げ例



	ブレーカー工法	側溝水平切断工法
工法		
	従来工法	新工法
騒音	有り	低
振動	有り	低
粉塵	有り	無し
影響	有り	無し

既設歩道のバリアフリー化に伴い側溝の嵩下げ工事が発生する場合がある。従来工法では計画高で内側から水平にサンダー等の小型カッターを3㎝深さ程度入れた後にブレーカーでハツリ撤去していた。このような場合、騒音・振動・粉じん等の発生がある上にブレーカー作業での鉄筋を伝わる振動で残存部にクラックが入るなど、躯体を補修するなどの必要があった。

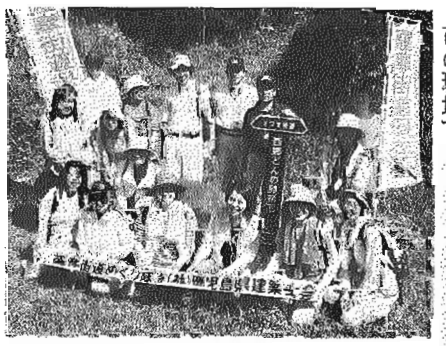
そこで、今回提案する機械は側溝の壁厚分を全て水平に切断する工法である。ハツリ作業を伴わない工法により既存躯体への影響がなく、補修する必要が無くなった。また、低騒音・低振動で作業ができ、粉じんの発生もほとんど出ない工法で環境に配慮された工法である。

初秋の薩摩路、ドタバタと

県建築士会女性部会（久木田洋子会長）の「薩摩街道めぐり隊」12人は1日、薩摩川内市の御陵下運動公園から陽成公民館までの約6・7㎞、さわやかな初秋の薩摩路を歩く会を企画。ところがこの日は10月の月間最高気温を更新、さわやかのはずが猛暑の中を歩く破目に。

案内役は、薩摩街道保存会（丸目直樹会長）の野元善文副会長（県建築士会川薩支部副支部長）と中俣知大同会事務局長（同支部長）。会員や山下利徳同日置・串木野支部前青年部長らも加わって総勢18人で歩いた。

ゴールの陽成公民館では上脇ゆきみさん（上脇建築設計事務所）が大鍋いっぱいの豚汁を用意して待っていた。昼食後、乗合バスで出発地まで帰る予定のは



市の現地で

性めぐり隊員、めの一條神社まで歩こうと言い出した。

10月からのバス運行時間変更が気になった中俣事務局長。バス停で確認すると1時間も待つことが分かり、境内で一休みすることにした。

野元副会長が飲み干したペットボトルを捨てに近くの商店まで下り始めた。男性陣もそのあとに続いた。自動販売機で買い求めて間もなく、何とバスがやって来るではないか。奥哲也副支部長が体を張ってバスを止め、運転手に事情を伝え、境内にいる皆を呼んだ。

境内から少し離れたところで散策を楽しん

鶴子さん（女性部会副部会長）には「次回は気候のよい時期にとのお声をいただいた」とか。

FROMEAST証券

証券業登録を完了

㈱FROMEAST証券（東田真輝社長、東京都）はこのほど、証券業登録を完了し、「新たな金融の創造と提供」をテーマに営業を開始した。当面は上場会社と比べ資金調達手段が少なく限られた事業リスクが高い中小企業が発行する社債（私募債）の取り扱いの業務を中心に、中小企業の資金調達市場の発展と拡大に貢献するよう事業を展開する。

同社は、平成17年3月7日に設立、同年9月21日に関東財務局に申請していた証券業の登録を完了。私募債とミドルリスク・ミドルリターン～ハイリスク・ハイリターンを期待する投資家等のニーズとのマッチングを行い、直接金融を利用した調達手段を創造する。

問い合わせは、同社（東京都中央区日本橋浜町3－16－7 ☎03・5645・5611 FAX5645・5612 URL：http://www.fes.co.jp）白井氏まで。

薩摩街道九州サミット

一般参加者を募集

薩摩街道保存会（丸目直樹会長）は22日、鹿児島市の県歴史資料センター黎明館で開催の全国歴史街道展等を見学後、薩摩川内市のホテルオートリで薩摩街道九州サミットを開催する。

当日は秋月街道や豊前街道、豊後街道等で同様の活動を展開している団体、個人らが出席。旧街道の現代的意味付けや全国街道会議との連携等を話し合う。一般参加者を募集中。

後援は薩摩川内市・同市教育委員会、県建築士会川薩支部、県建築士事務所協会川薩支部。

参加申し込みは、同保存会事務局（☎0996・22・0694）中俣事務局長まで。

タバコのポイ捨てマナーアップ運動

25日、鹿児島市で

国道維持管理コミュニケーション型ワークショップ協議会（福永誠会長）は25日午前7時から、鹿児島市の国道3号の下伊敷交差点及び玉江交差点までを対象に「タバコのポイ捨て　マナーアップ運動」を開き、声かけしながらドライバーや歩行者に粗品とチラシを配布する。